



女性に対する暴力根絶の
ためのシンボルマーク

男女間における暴力に関する調査 報告書 〈概要版〉

平成 27 年 3 月

内閣府男女共同参画局

目 次

I 調査の概要	1
II 配偶者からの被害経験	3
III 交際相手からの被害経験	6
IV 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験	9
V 異性から無理やりに性交された経験（女性のみ）	11

※ 当資料は、「男女間における暴力に関する調査報告書」（平成 27 年 3 月）の主要な項目についてまとめたものである。

I 調査の概要

1 調査目的

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」（平成 13 年法律第 31 号。以下、「配偶者暴力防止法」という。）では、国及び地方公共団体は、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に資するため、調査研究の推進に努めるよう規定している。また、「第 3 次男女共同参画基本計画」（平成 22 年 12 月 17 日閣議決定）では、女性に対する暴力についての確な施策を実施し、社会の問題意識を高めるため、定期的・継続的な実態把握の調査に努めることとしている。

男女間を取り巻く環境の変化に応じた被害傾向の変化等に適切に対応するため、これまで、平成 11 年度、平成 14 年度、平成 17 年度、平成 20 年度、平成 23 年度に、全国 20 歳以上の男女 5,000 人（平成 17 年度以前は 4,500 人）を対象に、無作為抽出によるアンケート調査を実施している。

前回調査から 3 年後に当たる平成 26 年度においても、これらの先行調査を踏まえつつ、今後の男女間における暴力対策の推進に資することを目的とし、国内の男女間における暴力の実態を把握する。

2 調査対象

- (1) 母集団 全国 20 歳以上の男女
- (2) 標本数 5,000 人
- (3) 抽出法 層化二段無作為抽出法

3 調査時期

平成 26 年 12 月

4 調査方法

郵送留置訪問回収法

（回収は、対象者自身が回収用封筒に記入済みの調査票を密封したものを、調査員が回収した。また、対象者本人が希望した場合には、郵送回収またはオンライン回答とした。）

5 回収結果

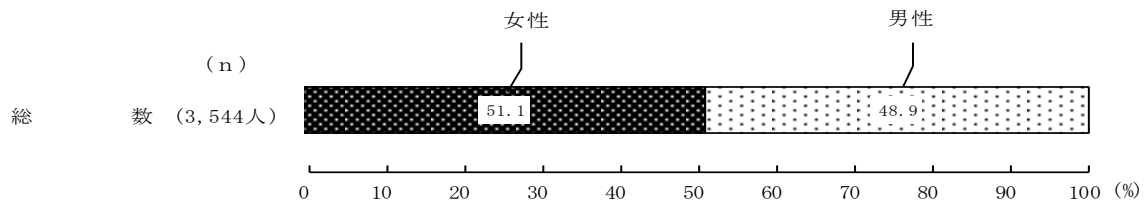
- (1) 有効回収数（率） 3,544 人（70.9%）
（内訳） 女性 1,811 人 男性 1,733 人
- (2) 回収不能数（率） 1,456 人（29.1%）

回収不能理由内訳

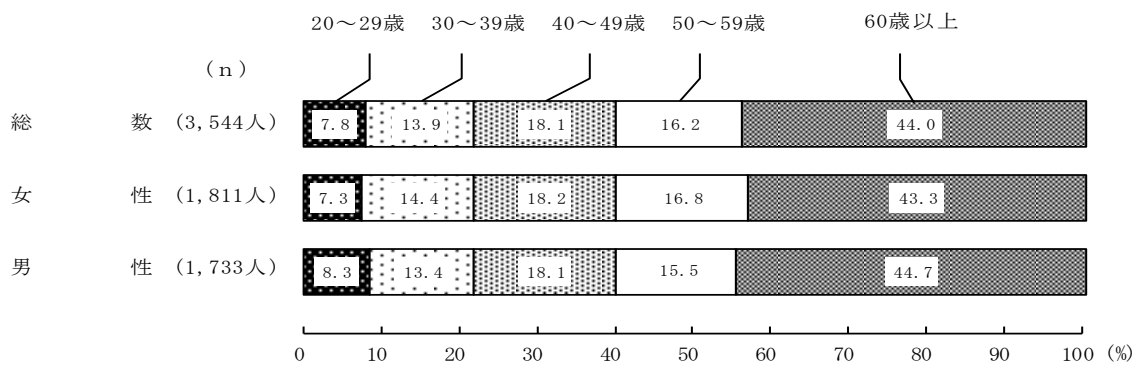
転居	24（0.5%）	調査票不達	2（0.0%）
長期不在	36（0.7%）	郵送依頼未回収	168（3.4%）
一時不在	366（7.3%）	web 希望未回答	77（1.5%）
住所不明	15（0.3%）	白票	44（0.9%）
拒否	528（10.6%）	その他	196（3.9%）

6 回答者の属性

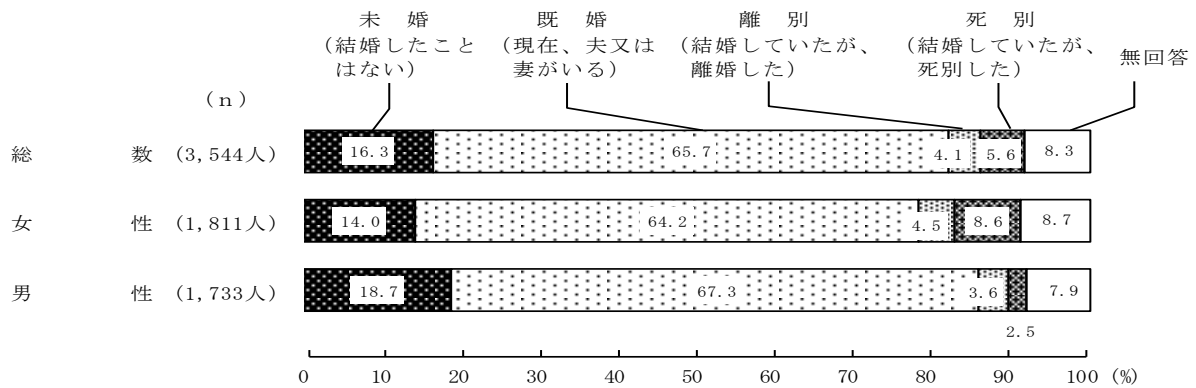
(1) 性別



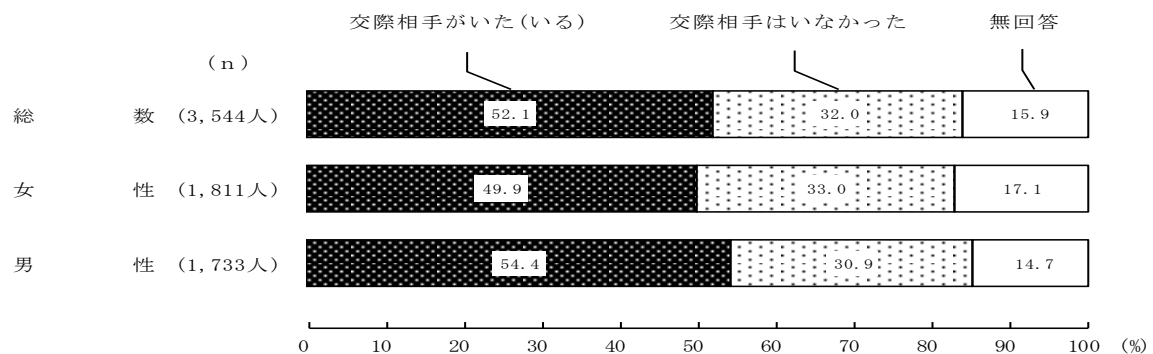
(2) 年齢



(3) 未既婚



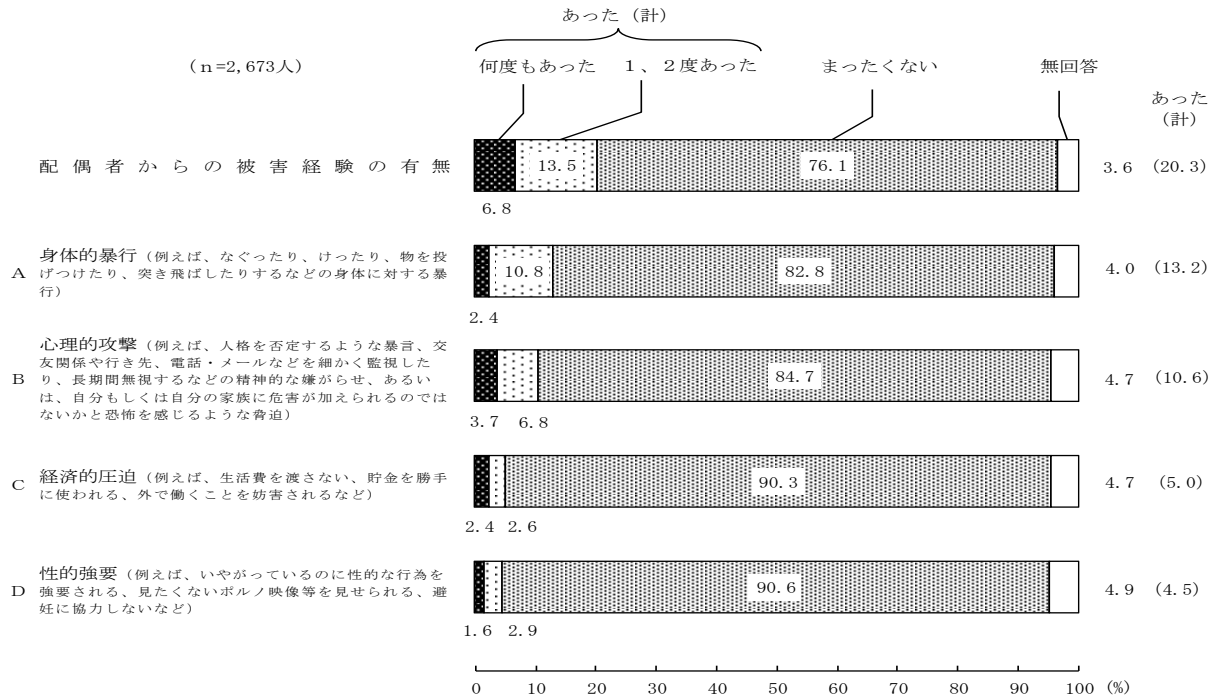
(4) 交際相手の有無



II 配偶者からの被害経験

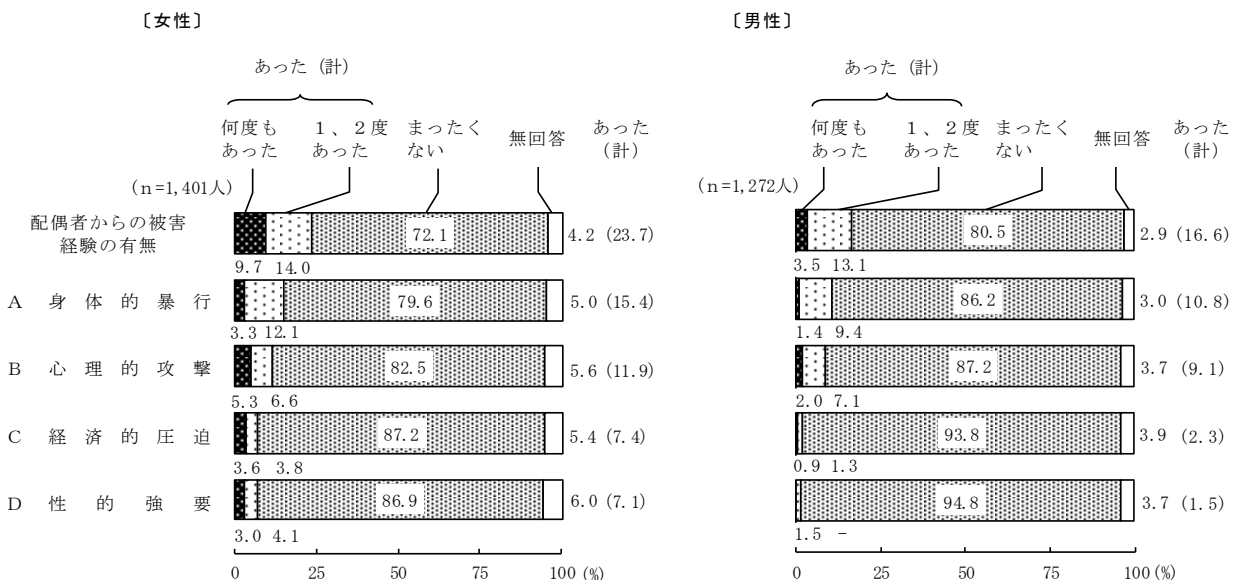
1 配偶者からの被害経験

約5人に1人は配偶者から暴力を受けたことがある



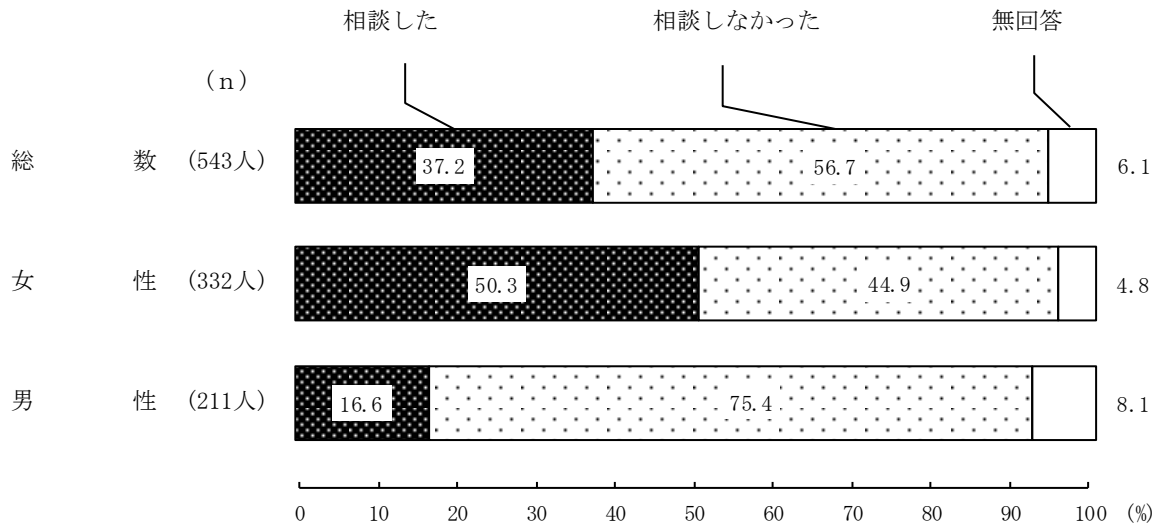
2 配偶者からの被害経験(男女別)

女性の約4人に1人は配偶者から被害を受けたことがあり、約10人に1人は何度も受けている



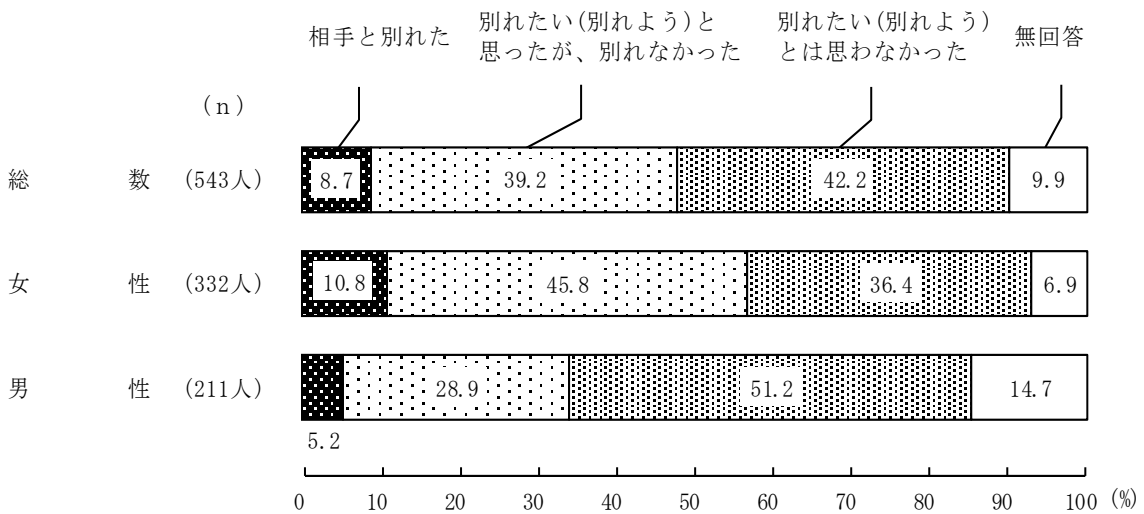
3 配偶者からの被害の相談の有無

被害を受けた女性の約4割、男性の約8割はどこにも相談していない



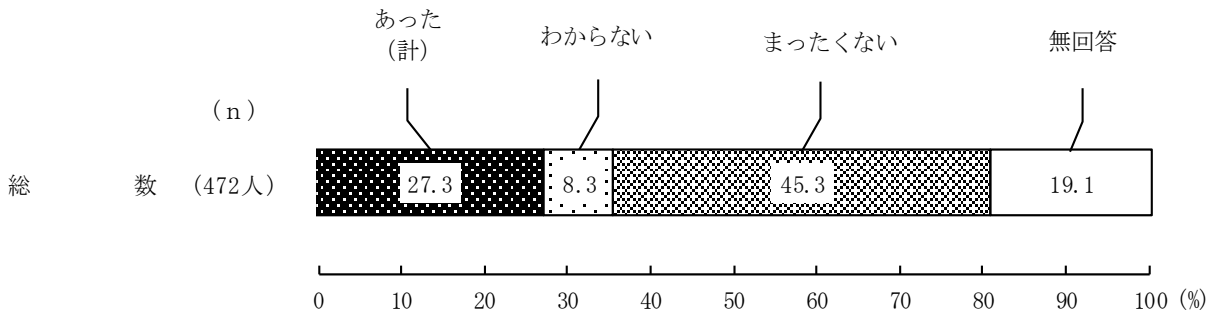
4 配偶者から被害を受けたときの行動

被害を受けた女性の約6割が「別れたい（別れよう）」と思っており、そのうち約1割は別れている



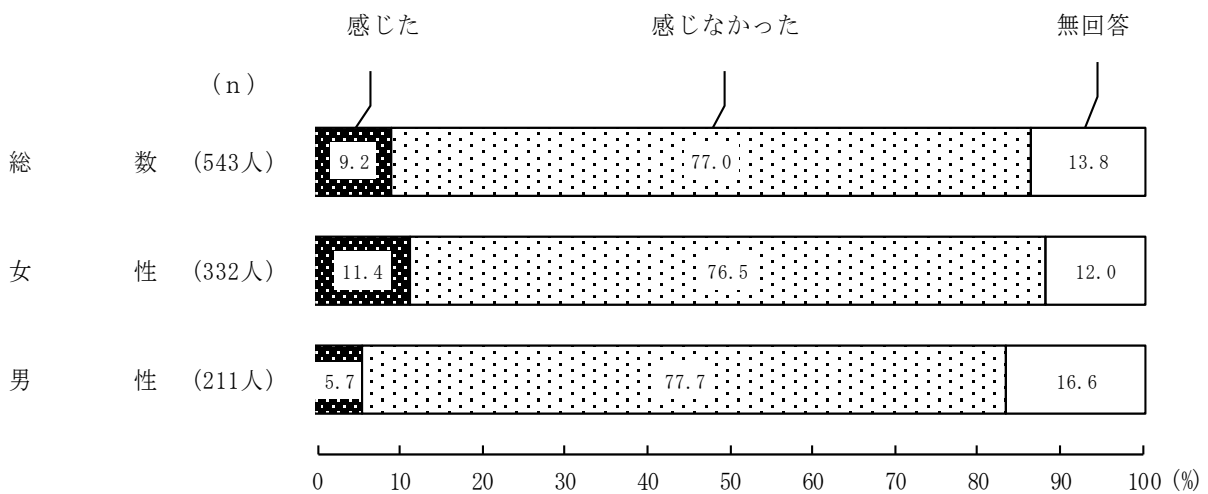
5 子どもの被害経験

被害を受けたことがある家庭の約3割は子どもへの被害もみられる



6 命の危険を感じた経験

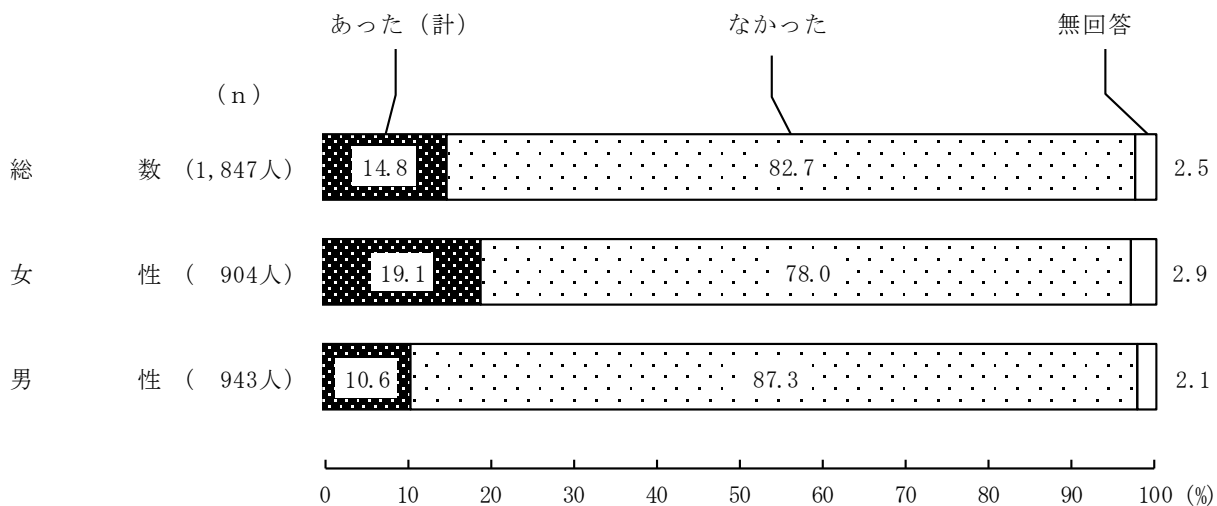
被害を受けた女性の約9人に1人は命の危険を感じた経験がある



Ⅲ 交際相手からの被害経験

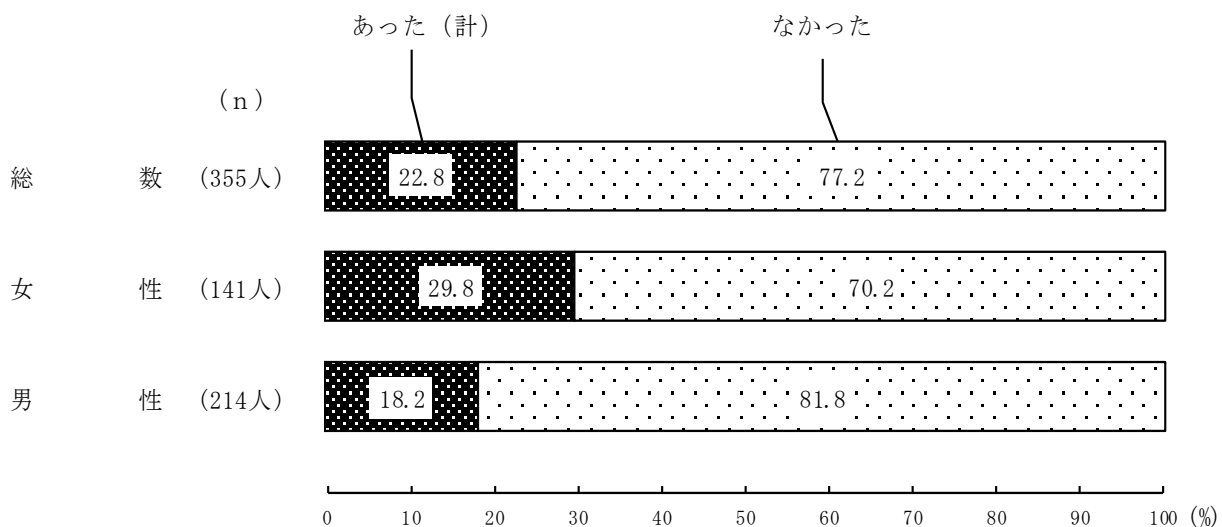
1 交際相手からの被害経験

女性の約5人に1人は交際相手から被害を受けたことがある



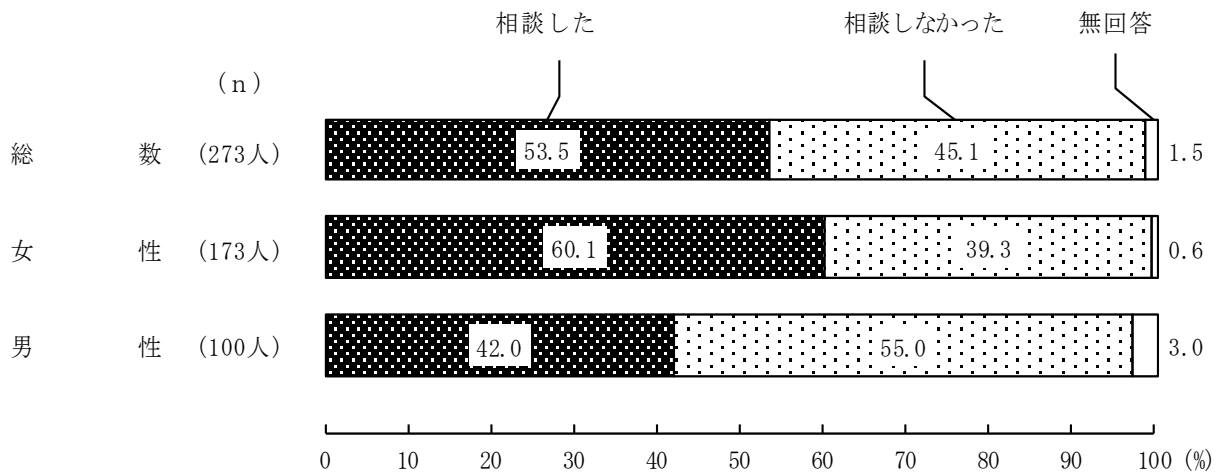
2 同居する交際相手からの被害経験の有無

交際相手と同居 (同棲) 経験がある女性の約3人に1人は被害を受けたことがある



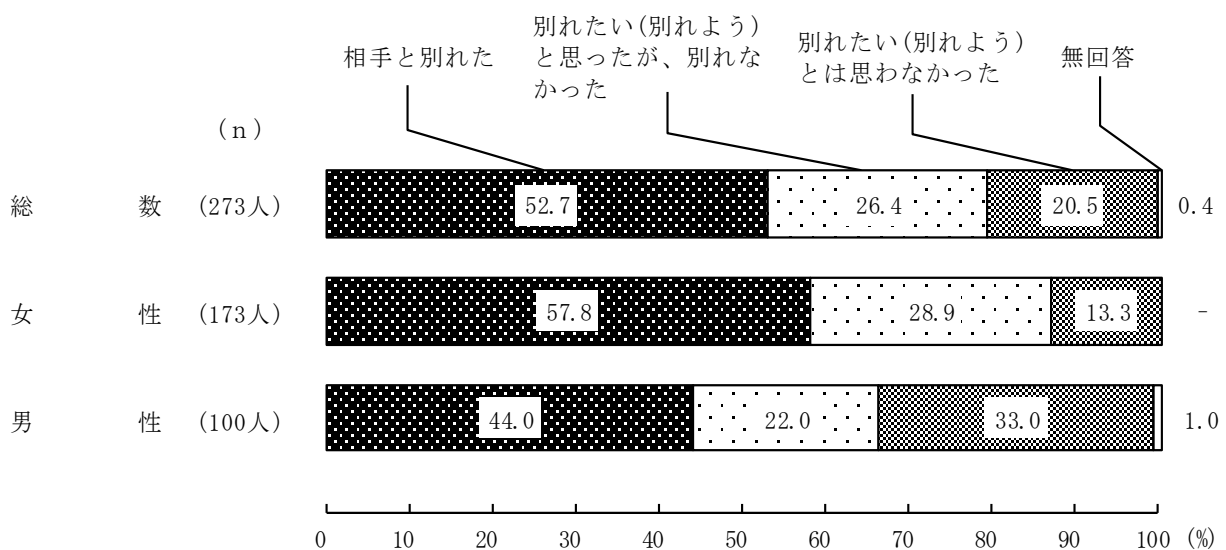
3 交際相手からの被害の相談の有無

被害を受けた女性の約4割はどこにも相談していない



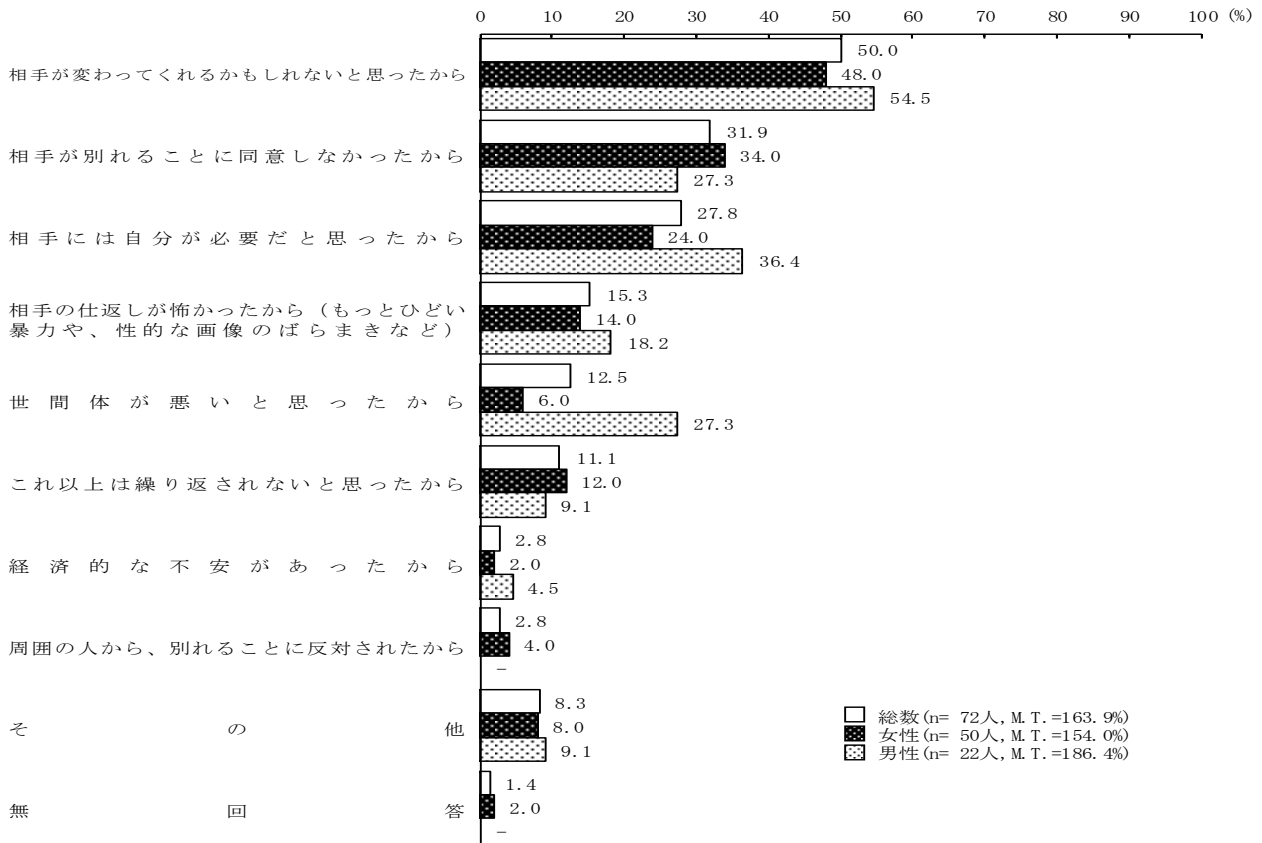
4 交際相手から被害を受けたときの行動

被害を受けた女性の約6割、男性の約4割が交際相手と別れている



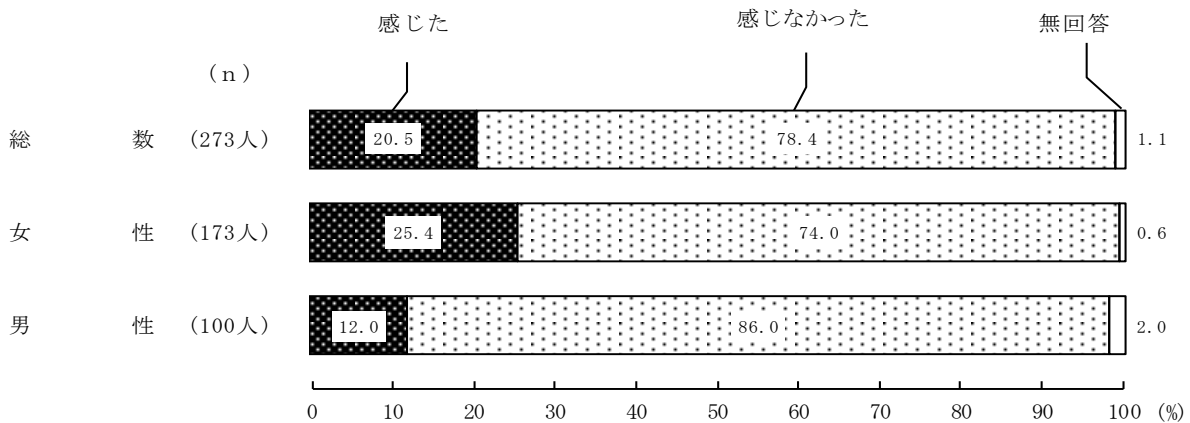
5 交際相手と別れなかった理由（複数回答）

約半数が「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」



6 命の危険を感じた経験

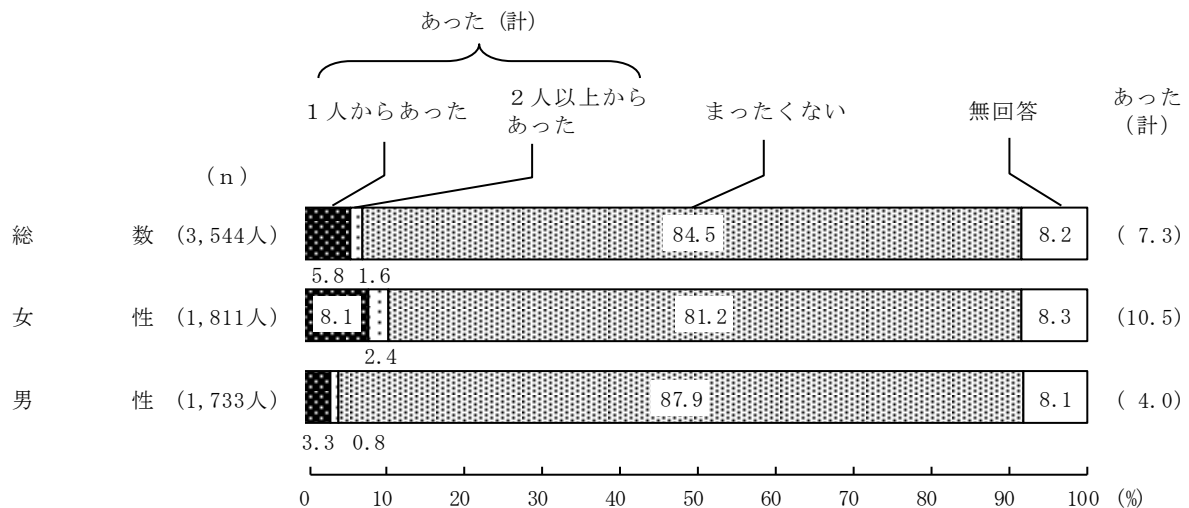
被害を受けた女性の約4人に1人は命の危険を感じた経験がある



IV 特定の異性からの執拗なつきまとい等の経験

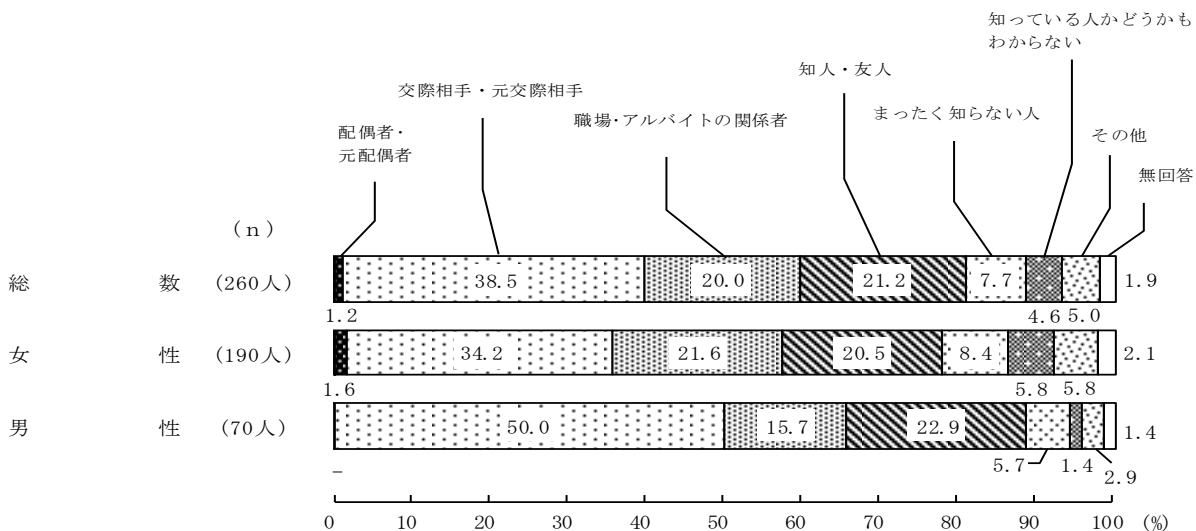
1 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験

女性の約 10 人に 1 人は特定の異性からのつきまとい等の被害を受けたことがある



2 加害者との関係

交際相手・元交際相手が約 4 割、職場・アルバイトの関係者、友人・知人が約 2 割



*下記の選択肢は、表記を省略している。

配偶者・元配偶者：配偶者（事実婚や別居を含む）・元配偶者（事実婚を解消した者を含む）

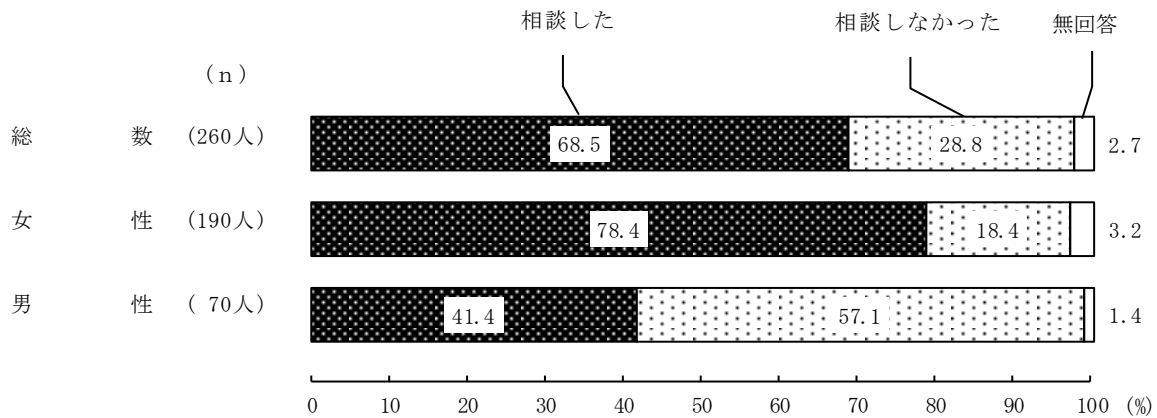
職場・アルバイトの関係者：職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先の相手など）

まったく知らない人：まったく知らない人（相手の姿は見えるが、面識がなく誰だかわからないなど）

知っている人かどうか分からない：知っている人かどうか分からない（無言電話の相手やインターネット上の相手などで姿が見えず誰だかわからない）

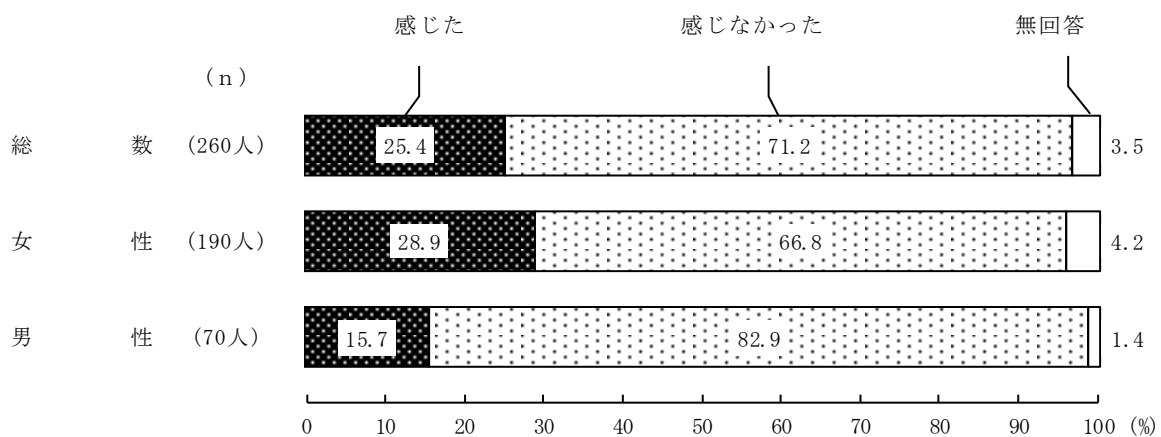
3 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害の相談経験の有無

女性の約8割は相談しているが、男性の約6割は誰にも相談していない



4 命の危険を感じた経験

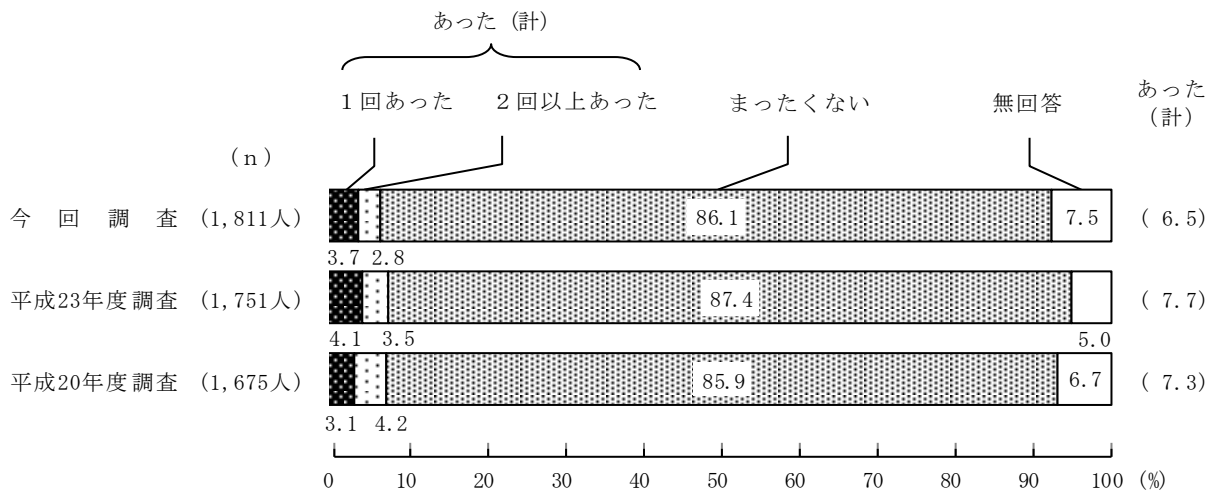
被害を受けた女性の約3割は命の危険を感じた経験がある



V 異性から無理やりに性交された経験（女性のみ）

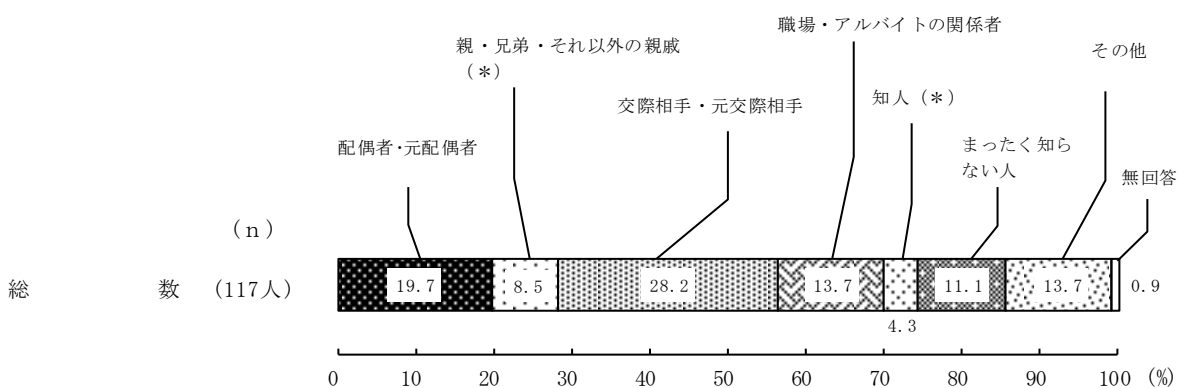
1 異性から無理やりに性交された経験 一時系列比較

女性の約 15 人に 1 人は異性から無理やりに性交された経験がある



2 加害者との関係

交際相手・元交際相手が約 3 割、配偶者・元配偶者が約 2 割



* 上記の図では、下記のように一部の選択肢を合算して表記している。

親・兄弟・それ以外の親戚：「親（養親・継親も含む）」「兄弟（義理の兄弟も含む）」「上記以外の親戚」の合算

知人：「通っていた（いる）学校・大学の関係者（教職員、先輩、同級生、クラブ活動の指導者など）」「地域活動や習い事の関係者（指導先輩、仲間など）」「生活していた（いる）施設の関係者（職員、先輩、仲間など）」の合算

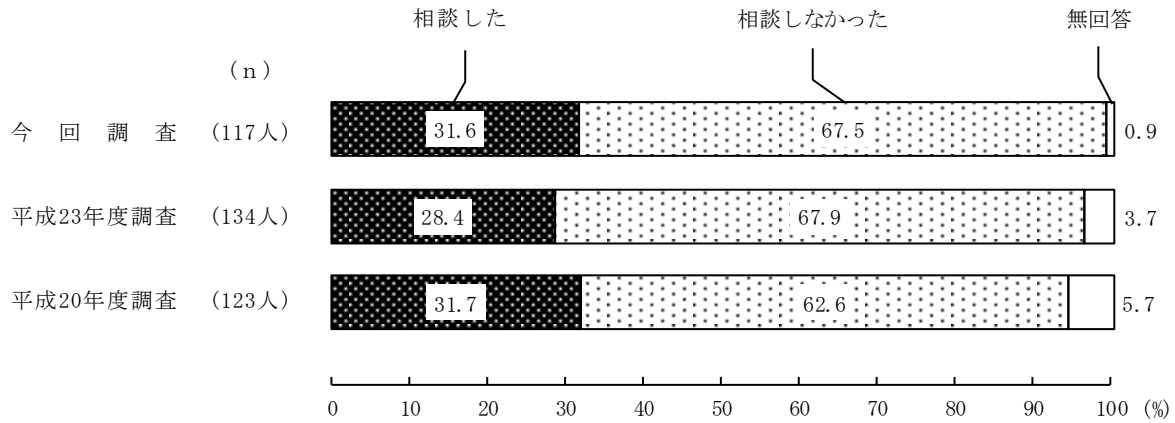
また、下記の選択肢は、表記を省略している。

配偶者・元配偶者：配偶者（事実婚や別居中を含む）・元配偶者（事実婚を解消した者を含む）

職場・アルバイトの関係者：職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先の相手など）

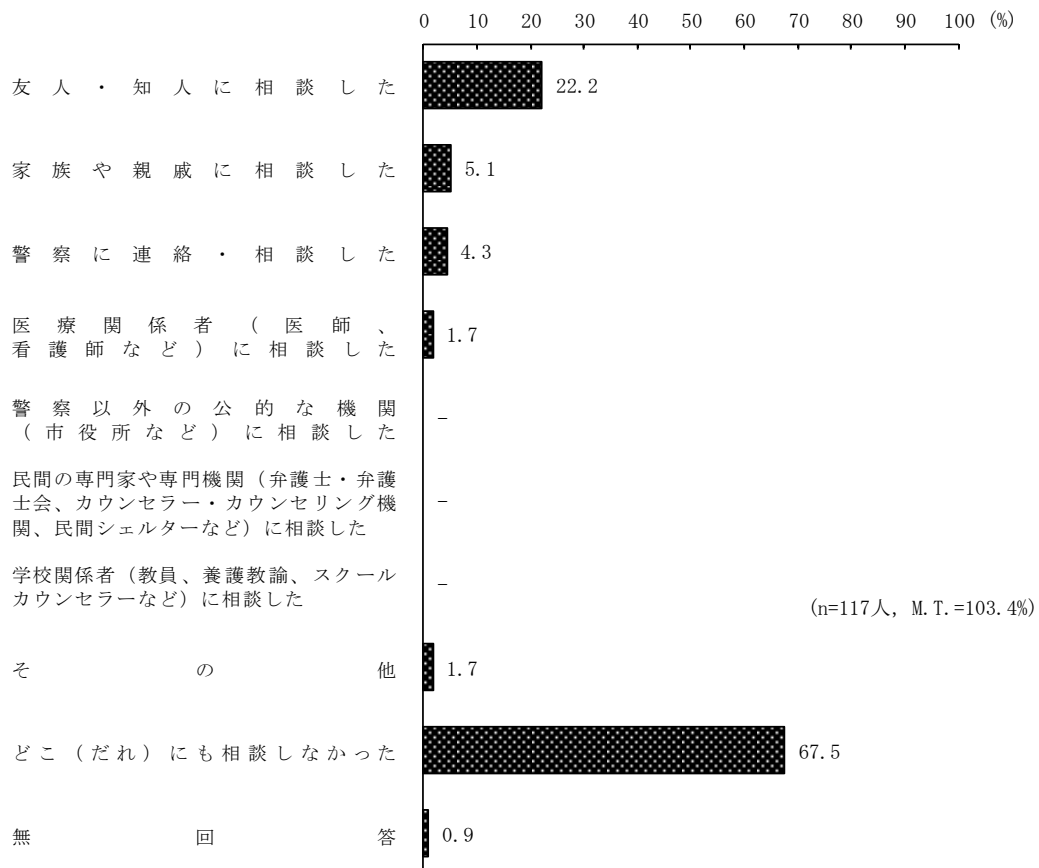
3 異性から無理やりに性交された被害の相談の有無 一時系列比較

被害を受けた女性の約7割はどこにも相談していない



4 異性から無理やりに性交された被害の相談先(複数回答)

被害を受けた女性の約2割は友人・知人に相談している





内閣府男女共同参画局推進課

〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1

TEL : 03-5253-2111 (大代表)

FAX : 03-3592-0408

ホームページ <http://www.gender.go.jp/>